

No.	作品名	制作年	号数	摘要
1	鳥と鶏頭	1958年(昭和33)	P8	
2	鯛	1954年(昭和29)	P12	
3	華	1955年(昭和30)	F10	
4	鳥と狼と	1956年(昭和31)	P30	
5	鳥と少年	1956年(昭和31)	F8	
6	開拓地	1957年(昭和32)	F80	第12回行動美術展
7	海・村・人	1960年(昭和35)	P20	
8	雪中坑夫	1957年(昭和32)	P30	
9	雪中人馬	1957年(昭和32)	F60	
10	農夫	1957年(昭和32)	P8	
11	蛸と漁夫	1958年(昭和33)	変 15	
12	煙と農夫	1958年(昭和33)	F60	
13	北海漁夫	1958年(昭和33)	F60	
14	浜の朝	1963年(昭和38)	F20	
15	鳥と蝶	1959年(昭和34)	F10	
16	炎と男	1960年(昭和35)	F30	第13回全関西行動美術展
17	海女と岩	1960年(昭和35)	変 15	
18	花をつむ少女	1960年(昭和35)	F8	
19	花と女	1960年(昭和35)	F10	
20	かまきりとけいとう	1968年(昭和43)	P10	
21	鶏頭	1956年(昭和31)	F12	
22	防風林	1957年(昭和32)	P15	
23	遺跡	1961年(昭和36)	F100	第16回行動美術展
24	荒野	1957年(昭和32)	P30	
25	稻荷山の狐	1959年(昭和34)	F10	
26	稻荷山	1960年(昭和35)	P10	
27	蛙と鶏	1966年(昭和41)	F8	
28	ランプのある静物	1966年(昭和41)	F10	
29	ミイラと狐女	1972年(昭和47)	F100	
30	人間 ひとのふりみてわがふりなおせ	1979年(昭和54)	S80	
31	青の中の人	1984年(昭和59)	F80	
32	三大字「無量壽」			

※ No.1 ~ 28 まで、大橋コレクション
 ※ No.32 を除き、いずれもカンバスに油彩



齋藤 眞成（さいとう しんじょう）略歴

- 1917年（大正6） 6月5日、名古屋にて北村松三郎とその妻 康(やす)の長男 北村金吾として生まれる。父親は京都出身、名古屋で染色関係の仕事についていた。母親は山形県鶴岡の士族(旧庄内藩士)の出身であった。
- 1919年（大正8／2歳） 父親が死亡、母と姉とともに京都在住の伯父(母方の兄)で南画家の服部五老のもとに身を寄せる。
- 1922年（大正11／5歳） 五老の紹介で真如堂理正院に入る。
- 1930年（昭和5／13歳） 得度受戒、法名 北村眞成となる。
- 1934年（昭和9／17歳） 龍谷大学入学、天台学を学ぶ。大学の美術サークルや紫野洋画研究所で洋画を学び、太田喜二郎に師事する。理正院から東陽院にうつる。
- 1940年（昭15／23歳） 龍谷大学文学部仏教学科を卒業。尋常小学校の代用教員、のち商業学校教諭となり、国語と図画を担当する。
- 1941年（昭16／24歳） 臨時招集により京都歩兵第119連隊(福井県敦賀)に入隊、12月に招集解除となる。
- 1942年（昭17／25歳） 八木世津子と結婚。2子をもうける。
- 1943年（昭18／26歳） 真如堂東陽院(東陽坊)第30世住職となり、齋藤姓となる。
- 1948年（昭23／31歳） 第3回行動美術展に初出品。以後、行動美術展を中心に、全関西行動美術展、日本現代美術展などに出品を重ねる。
- 1952年（昭27／35歳） 行動美術協会会員となる。翌年、大阪にて初めての個展を開催。以後、各地で個展、グループ展を精力的に開催する。
- 1956年（昭31／39歳） 成安女子短期大学非常勤講師(1958年より助教授、1962年より教授)となる。
- 1961年（昭36／44歳） パリを中心にヨーロッパ11ヶ国を巡遊、ヨーロッパにおける現代美術の状況及びその源流を視察。
- 1965年（昭40／48歳） 京都教育大学特修美術科助教授(1967年より教授、1970年退官)となる。
- 1971年（昭46／54歳） 京都嵯峨にアトリエを構える。
- 1972年（昭47／55歳） 朝日新聞連載小説 田辺聖子「すべてころんで」(1978年には同著「魚は水に女は家に」)の挿絵を担当。
- 1973年（昭48／56歳） 致道博物館にて「すべてころんで」の挿絵展を開催する。
- 1978年（昭53／61歳） 故大橋嘉一氏のコレクションより油彩画39点が、遺族から致道博物館に寄贈される。パリにて初めての海外個展を開催。以後も、パリ、ベルギー、ニューヨークなどで個展を開催する。
- 1979年（昭54／62歳） 致道博物館にて受贈した大橋コレクションによる齋藤眞成展を開催する。
- 1987年（昭62／70歳） 京都府文化功労賞受賞。翌年、京都市文化功労者表彰。
- 1994年（平6／77歳） 「魂の曼荼羅を描く 齋藤眞成展」(3月・山形美術館、6月・致道博物館)を開催する。
- 1995年（平7／78歳） 行動美術展50回展をもって行動美術協会会員を引退する。
- 1997年（平9／80歳） 大阪・国立国際美術館で「齋藤眞成展」を開催する。第10回京都美術文化賞を受賞。翌年、京都文化博物館にて受賞記念展開催。
- 1998年（平10／81歳） 画集「齋藤眞成」(京都書院刊)を発刊。真如堂 第53世貫主に就任(2008年まで)。
- 2004年（平16／87歳） 京都府より第22回府文化賞 特別功労賞受賞。
- 2008年（平21／92歳） 致道博物館・鶴岡アートフォーラム両館で「齋藤眞成展－油彩・墨彩・書－」を開催。